

『浅井圓道選集』第三卷の発刊

関 戸 堯 海

浅井圓道先生の『浅井圓道選集』については、第一・二巻を発刊した後しばらく時間が経過していました。山喜房佛書林の浅地康平社長より「まだまだ収録していない浅井先生の論文も多いので、ぜひ第三巻の発刊を」とのご依頼がありました。ちょうど平成一六年の四月三日に私が浅井先生のお宅を訪問する予定になっていましたので、第三巻の発刊についてお話をしてみることになり、お聞きしたところ、浅井先生から「最近、根気が続かないので、もし誰かが編集業務全般を受けてくれれば良いが、そうでなければ自分でやるのは不可能です」とのご返事を頂いたので、浅地社長とも相談の上、私が編集業務の全てを担当することとなりました。

その後、せっかちな浅井先生のことですから「早く、早く」と催促されるなか編集作業を進めていましたところ、急に検査で入院するということでした。まず、六月九日に一度お見舞いにかがいがい、その後、六月三〇日に東京女子医大病院の病室で打合せをすることになり参上しましたが、浅井先生はベランダに出て美味しそうに煙草を吸っていました。先生も私も二人とも本当の病名は知りませんでしたので、糖尿の患者用の飲料を全部飲みきれず二人とも「口に合わないね」などと言いながら打合せを済ませました。その後、退院したら長崎にしばらく静養に帰るので、東京に戻ってきたらまた編集の打合せをするという段取りになりました。まったく、呑気な二人でした。その頃の奥

様のご心配を思うと胸が痛みます。

時折、長崎に電話をすると「気分がすぐれないので校正のチェックが進まない」とおっしゃっていました。私は回復を信じて疑わずにりましたが、編集作業も停滞してしまいますので、長崎行き準備を進めていた矢先、九月八日に突然の訃報を聞くに至りました。本のタイトルについては何度も相談させて頂いておりましたが、結局は最終的な判断を頂くことが出来ずにお別れとなってしまいました。そのため、小松邦彰先生のアドバイスで『日蓮聖人と真言教学』とさせて頂き、小松先生には巻頭言も賜りました。

浅井先生は最後まで本当の病名をご存じなかったのではないかと信じています。もし私も知っていれば冷静に編集作業を進めることはできなかつたでしょう。

(立正大学日蓮教学研究研究所研究員)